

MDV診療データ調査リリース vol.3
 「後発医薬品の数量シェアに関する処方実態調査」

医療情報のネットワーク化を推進するメディカル・データ・ビジョン株式会社(本社:東京都千代田区 代表取締役:岩崎 博之 以下、MDV)は、2013年12月より、「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」をはじめとする合計6テーマの調査結果を公表しております。第3回となる今回は、後発医薬品の数量シェアに関する処方実態についての調査結果をお知らせいたします。

国は2018年3月末までに後発品の数量シェアを60%以上にする目標に掲げています。また2014年度からは、機能評価係数に「後発医薬品指数」が追加されることとなり、DPC対象病院における影響は大きいものと予想されています。

このような背景を踏まえこの度、数量シェア(厚生労働省によるGEマスタを基に算出)でみた後発医薬品の処方実態を調査することとなりました。

【 サマリ 】

2011年11月～2013年11月における後発品数量シェアの平均値は6.3ポイント上昇

病院種別では公立病院が、病院規模では中規模病院において後発品の数量シェアが高い傾向

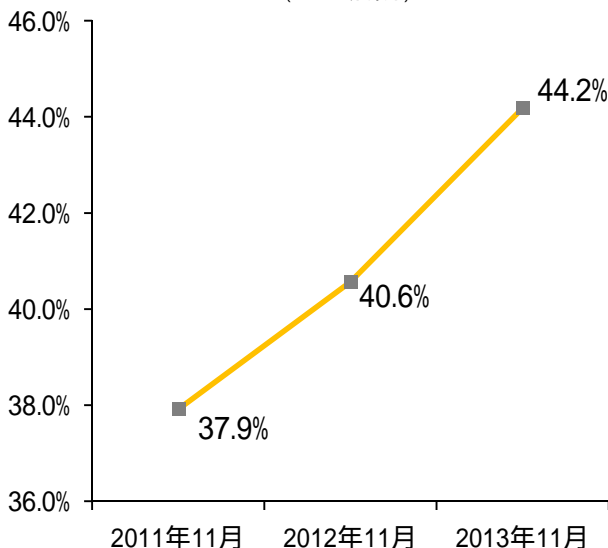
後発品処方の多い薬効群の数量シェアは上昇傾向

2011年11月～2013年11月におけるレバミピドの数量シェアは約3倍に

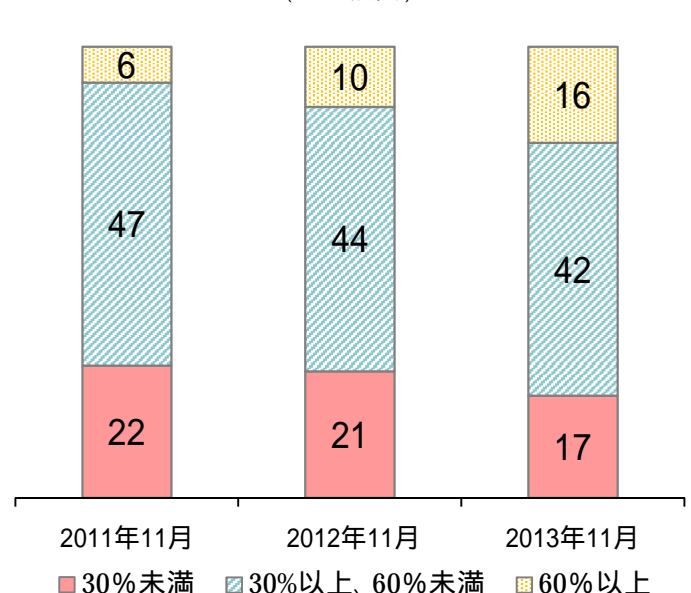
【 2011年11月～2013年11月における後発品数量シェアの平均値は6.3ポイント上昇 】

2011年11月～2013年11月における後発品数量シェアの平均値推移を見てみると、2011年11月の平均値が37.9%だったのに対し、2013年11月の平均値は44.2%と上昇しています。次に、後発品数量シェア別での病院数推移を見てみると、2011年には数量シェア60%以上が6病院、30%以上60%未満が47病院、30%未満が22病院だったのに対し、2013年にはそれぞれが16病院、42病院、17病院と推移しており、特に60%以上の採用病院が大きく増加していることがわかります。

【後発品数量シェアの平均値推移】
(n=75病院)



【後発品数量シェア別での病院数推移】
(n=75病院)



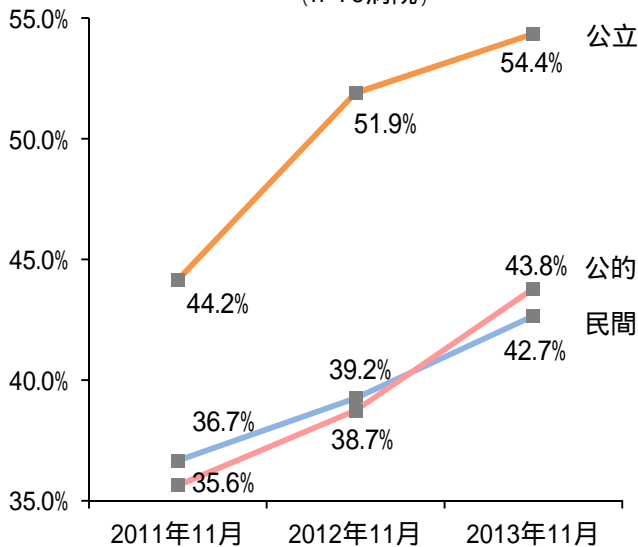
【病院種別では公立病院が、病院規模では中規模病院において後発品の数量シェアが高い傾向】

2011年11月～2013年11月における病院種別および病院規模での後発品数量シェア推移をみます。

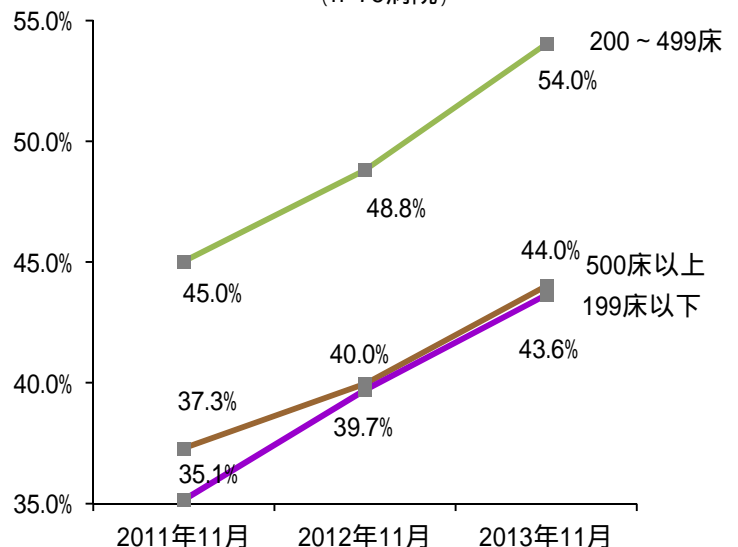
病院種別では、公立病院における数量シェア・伸び率が共に高く、2013年11月には平均を約10ポイント上回る54.4%の数量シェアとなっています。それに対し民間病院は、2011年11月の35.6%から2013年11月の42.7%と伸びてはいるものの、数量シェア・伸び率共に低いことがわかります。

病院規模では、200～499床の中規模病院の数量シェア・伸び率が共に高く、199床以下の小規模病院および500床以上の大規模病院は2013年11月時点で約44%と平均的な数量シェアとなっています。

【病院種別での後発品数量シェア推移】
(n=75病院)



【病院規模別での後発品数量シェア推移】
(n=75病院)



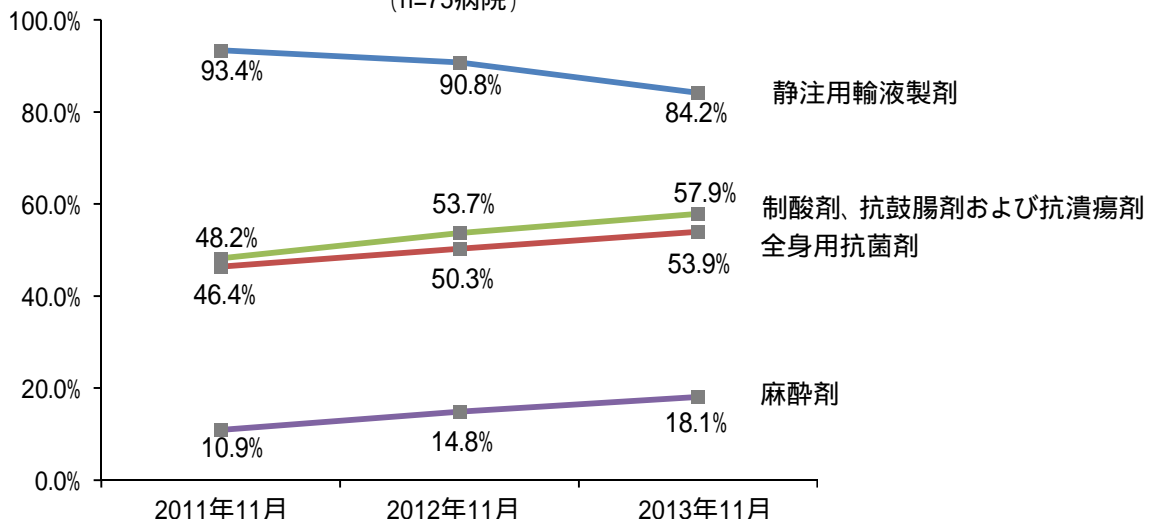
【後発品処方が多い薬効群の数量シェアは上昇傾向】

2011年11月～2013年11月における数量の多い薬効群別 (ACT3桁別) の後発品数量シェア推移をみます。

当該期間における後発品処方数量の順位は、1位「制酸剤、抗鼓腸剤および抗潰瘍剤」、2位「全身用抗菌剤」、3位「麻酔剤」、4位「静注用輸液製剤」となっています。それぞれの後発品数量シェア推移をみると、「制酸剤、抗鼓腸剤および抗潰瘍剤」、「全身用抗菌剤」、「麻酔剤」は緩やかな上昇となっていますが、「静注用輸液製剤」は約10ポイント近く下降しています。

なお、後発品処方数量順位が20位以内の中で、10ポイント以上の数量シェア上昇となっている薬効群は、「精神抑制薬」(13.9%上昇)、「カルシウム拮抗剤」(13.6%上昇)、「心臓治療薬」(13.8%上昇)、「鎮痛剤」(14.3%上昇)、「機能的胃腸障害用薬」(10.9%上昇)となっています。

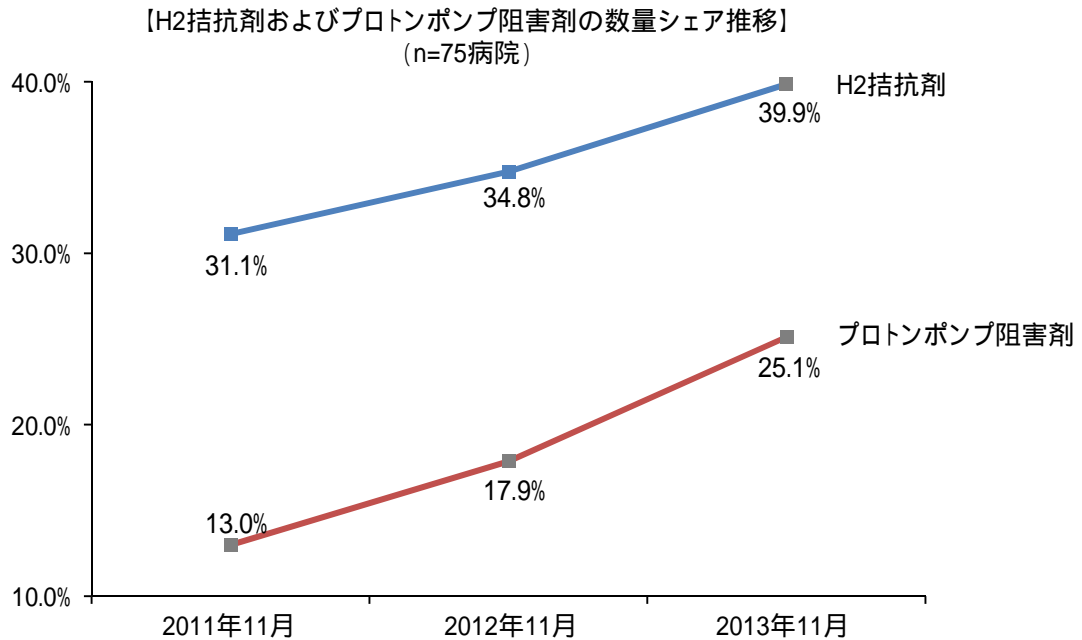
【数量の多い薬効群別 (ACT3桁別) の後発品数量シェア推移】
(n=75病院)



【2011年11月～2013年11月におけるレバミピドの数量シェアは約3倍に】

最後に、後発品処方数量が一番多い「制酸剤、抗鼓腸剤および抗潰瘍剤」についてみています。

「制酸剤、抗鼓腸剤および抗潰瘍剤」の後発品の中で最も処方数が多いのはレバミピドで、2011年11月が11.3%だったのに対し、2013年には29.9%と約3倍の伸びとなっています。H2拮抗剤とプロトンポンプ阻害剤は共に伸びを見せており、H2拮抗剤は2011年11月が31.1%だったのに対し2013年11月には39.9%、プロトンポンプ阻害剤は2011年11月が13.0%だったのに対し2013年11月には25.1%となっています。



【調査概要】

調査手法：当社が保有する「診療データベース」より抽出分析、数量シェアは厚生労働省によるGEマスタを基に算出

調査対象：二次利用の許諾を得ており、かつ調査対象期間のデータが全て揃っている75病院

調査期間：2011年11月～2013年11月